

平成 30 年度（2018 年度）自治体職員協力交流事業
協力交流研修員 研修報告書

2018 Local Government Officials Training Program in Japan
Trainee Reports



一般財団法人 自治体国際化協会

Council of Local Authorities for International Relations

は じ め に

総務省及び一般財団法人自治体国際化協会では海外の自治体等の職員を受け入れることについて、財政面や受入実務面での支援を行うための「自治体職員協力交流事業」を展開しています。

平成8年度より創設された自治体職員協力交流事業も23年目を迎え、38の国と地域から1,167名が本事業に研修員として参加されました。平成30年度（2018年度）においては10カ国から26名の研修員が様々な分野で実り多い研修を行いました。

本事業は「ひとづくり」を通じた国際協力事業の1つではありますが、研修員の皆さんが日本の自治体の有するノウハウ・技術を習得され、帰国後、日本における研修の成果や経験をそれぞれの職場において大いに活かされ、また、自治体間の国際協力・交流の貴重な架け橋として活躍されていると伺っております。

そうした研修員の日本での奮闘ぶり、研修の成果を各方面の方々のご協力のもと、平成30年度も報告書として編集することができました。全事例でなく、国際交流や技術の習得に加えて、研修員本人のノウハウが自治体の行政施策の実施や問題の解決に貢献している事例等を中心に8事例を選定し、ダイジェスト版として掲載しております。

この報告書が研修員派遣国や今後研修員の受け入れを予定されている各自治体において活用していただけたら幸いです。

最後に、研修員の受け入れにご尽力されました各受入自治体及び関係機関の皆様方に対して、心よりお礼を申し上げます。

一般財団法人自治体国際化協会
交流支援部 経済交流課

＝平成 30（2018）年度自治体職員協力交流事業スケジュール＝

2018 年

4 月 20 日（金） 受入自治体担当者会議

東京研修

5 月 20 日（日） 協力交流研修員の来日 ルポール麴町泊

5 月 21 日（月） 開会式

オリエンテーション

受入自治体との面談

ルポール麴町泊

5 月 22 日（火） 日本語レベルチェック

都内視察：江戸東京博物館等

ルポール麴町泊

5 月 23 日（水） 東京から滋賀（JIAM）へ移動

全国市町村国際文化研修所（JIAM）研修

5 月 24 日（木） 開講式

日本語研修開始 授業：70 分×68 コマ（6 月 20 日まで）

または 105 コマ（7 月 4 日まで）

5 月 30 日（水） 日本伝統文化講義

6 月 9 日（土） 日野町内視察

6 月 13 日（水） 地方自治財政講義

6 月 15 日（金） 所外学習（京都防災センター）

6 月 20 日（水） 成果発表会

6 月 21 日（木） 4 週間研修閉講式

7 月 4 日（水） 所外学習（唐崎中学校）

7 月 5 日（木） 6 週間研修閉講式

専門研修

6 月 22 日（金） または

7 月 6 日（金） 受入自治体における専門研修開始

研修員の帰国

11 月下旬～5 月にかけて順次帰国

2018(平成30)年度自治体職員協力交流事業 協力交流研修員名簿

No.	都道府県	市町村	NAME	氏名	国名	所属団体	研修分野
1	北海道	旭川市	JI GAYOUNG	チ ガヨン	大韓民国	水原市	一般行政
2	北海道	滝川市	DAVAASUREN TSEDEVSUREN	ダワースレン ツェデブス レン	モンゴル国	ウブスハンガイ県	農業
3	北海道	滝川市	DEMBEREL GANZORIG	デンベレル ガンゾリグ	モンゴル国	ウブスハンガイ県	農業
4	北海道	滝川市	DONDOGMEGD OTGONJARGAL	ドンドグメグド オトゴン ジャルガル	モンゴル国	ウブスハンガイ県	農業
5	北海道	滝川市	SODNOM CHULUUNTSETSEG	ソドノム チョローンツェ ツェグ	モンゴル国	ウブスハンガイ県	農業
6	岩手県	－	WANG ZHE	オウ テツ	中華人民共和国	大連市	経済交流
7	茨城県	笠間市	DO NGOC TU	ドゥ ゴック トゥ	ベトナム社会主義共和国	ソンラ省	農業行政
8	富山県	－	EBERLIN FABIO	エベルリン ファビオ	ブラジル連邦共和国	サンパウロ州	教育
9	福井県	敦賀市	KIM EUNJA	キム ウンジャ	大韓民国	江原道東海市	地方自治行政
10	山梨県	－	VILLAR DEBOSSAN IGOR	ヴィラー デボサン イーゴル	ブラジル連邦共和国	ミナスジェライス州	一般行政
11	岐阜県	高山市	HUANG JUN	ホアン ジュン	中華人民共和国	麗江市	医療(外科)、地方行政
12	岐阜県	高山市	HUAMAN HUAMAN HENRI MAURO	ウアマン ウアマン ヘン リ マウロ	ペルー共和国	ウルバンバ郡	廃棄物処理行政等
13	静岡県	浜松市	XU LI	ジョ リ	中華人民共和国	杭州市	観光、国際交流
14	愛知県	豊橋市	DOS SANTOS ADRIANA APARECIDA	ド サントス アドリアー ナ アパリスッダ	ブラジル連邦共和国	パラナヴァイ市	教育
15	滋賀県	東近江市	LI YUNZHAO	リ ウンジョー	中華人民共和国	常德市	地方自治行政
16	京都府	－	DU JIAN	ドゥ ジェン	中華人民共和国	陝西省	行政
17	鳥取県	－	LI XUEYING	リ シュエイン	中華人民共和国	吉林省	商工行政、国際行政
18	高知県	－	ATIMPAO LANELYN GOLINGAB	アティンパオ レーンリン ゴリンギャブ	フィリピン共和国	ベンゲット州	農林水産、造園
19	高知県	高知市	HARMANTO ANGGORO HIMAWAN	ハルマント アンゴロ ヒ マワン	インドネシア共和国	スラバヤ市	一般行政
20	福岡県	北九州市	MON TITO	モン ティト	カンボジア王国	ブノンベン都	水道
21	福岡県	福岡市	MYO THANT TUN	ミョー タン トゥン	ミャンマー連邦共和国	ヤンゴン市	上水道
22	福岡県	福岡市	NAW EHLINDER	ノー エーリンダー	ミャンマー連邦共和国	ヤンゴン市	上水道
23	福岡県	福岡市	YADANAR WUTTYI SOE	ヤダナー ウッティーソー	ミャンマー連邦共和国	ヤンゴン市	環境
24	福岡県	福岡市	KYAW MIN OO	チョー ミン ウー	ミャンマー連邦共和国	ヤンゴン市	道路下水道
25	長崎県	長崎市	LIMA MACHADO RODRIGO	リマ マシャド ロドリゴ	ブラジル連邦共和国	サントス市	教育委員会、国際、水道、水産農林、環境、平和、観光
26	大分県	－	CHEN JUAN	チン ケン	中華人民共和国	湖北省	観光、国際交流

平成 30 年度（2018）自治体職員協力交流事業（LGOTP）

報告書（ダイジェスト版）

目 次

1. 旭川市交流研修報告書 （大韓民国） P. 1
姉妹都市韓国水原市交流公務員を受け入れて （北海道旭川市） P. 4
2. Research and learn about capacity and experience in modern agricultural management of Kasama city government, further strengthening of good friendship between Son La province and Kasama city （ベトナム社会主義共和国） P. 6
協力交流研修員の受け入れを実施して（茨城県笠間市） P. 10
3. 高山市での研修を振り返って （中華人民共和国麗江市） P. 13
Learning in Japan （ペルー共和国 ウルバンバ郡） P. 19
高山市の自治体職員協力交流事業の活用について （岐阜県高山市） P. 23
4. 浜松市での研修成果及び今後の交流促進について（中華人民共和国杭州市） P. 26
杭州市からの研修生受け入れ成果について （静岡県浜松市） P. 30
5. 成果の多い研修でした （中華人民共和国常德市） P. 33
平成 30 年度自治体職員協力交流事業の報告について （滋賀県東近江市） P. 36
6. 日本の環境保護を学んで （フィリピン共和国ベンゲット州） P. 38
土壌管理技術および施肥管理技術の習得 （高知県） P. 41
7. Water supply management （カンボジア王国プノンペン郡） P. 44
カンボジアからの受け入れ研修 （福岡県北九州市） P. 47
8. 日本でのユニークな経験 （ブラジル連邦共和国） P. 49
長崎市と三都主氏の交流促進 （長崎県長崎市） P. 52

旭川市交流研修報告書

氏 名 池 佳瑛
出身国 大韓民国
受入自治体 旭川市
研修先 旭川市役所 都市交流課



1 本事業に応募した動機

私の住んでいる大韓民国水原市は基本的にあまり雪が降らない所であるが、ごく稀に雪がたくさん降ることがあり、その際除雪に関する未熟さを痛感する。水原市では、専門的ではない一般の公務員が夜も眠らずに、ひたすら塩化カルシウムを使って除雪を行うが、これでは公務員が事故の危険にさらされかねない上に、環境に対しても悪影響である。北海道は雪の多い地域なので、除雪に関する先進的な考えと技術を持っていると思った。日本の除雪に対する考え、一般市民の除雪の取組みを学び、韓国にも適用できる除雪政策を持ち帰りたいと考えた。

また、水原市の代表的な祭りである華城文化祭がより一層水原市民にとって誇らしく、楽しい祭りとなるよう、旭川市や近隣地域の祭りに参加し、祭りについて学ぼうと考えた。

2 研修の概要

2018. 5. 21. から 6. 20. までのJIAM研修は日本東京、JIAM(滋賀県 唐崎)で日本文化理解、レベルテスト、東京博物館及び浅草見学、自治体担当者と面談等、日本文化体験(ホームステイ)、日本語研修などを経験した。

	
文化教室	最終発表授業

旭川市では様々な研修を受けた。また、旭川市祭り（2018.8月(夏祭り)、9月(食べマルシェ)、2019.2月(冬祭り))に参加した。任された仕事は韓国から参加した来賓の引率及び案内すること、地域の祭りへの参加、イベント補助業務、韓国語ナレーション録音などだった。

水原市青少年(2018.8月)とマラソン代表団(2018.9月)を引率したこともあった。選手

団，学生及び担当職員を引率，ハーフマラソン区間の事前踏査及び旭川市体育施設踏査，近隣地域視察，旭川市長との面談に同席した。

	
青少年ホームステイ	ハーフマラソン代表団

各種文化教室に参加した。3回の韓国料理教室支援(ダッポクムタン，部隊チゲ，チヂミなど)，韓国童話の読み聞かせ(2018. 12. 16)に参加した。そして4回の小学校及び中学校での韓国文化授業をした。

	
韓国童話の読み聞かせ会	韓国料理教室

ドリームスタジアム，旭山動物園，旭川空港など各種施設を視察した。水原市体育会訪問による見学予定地事前調査(ドリームスタジアム，花咲スポーツ公園，国弓場など)，市が運営する旭川空港と旭山動物園の見学した。

3 帰国後の展望

祭りについて

(旭川冬まつり，層雲峡氷瀑祭り，札幌雪祭りなど)

北海道地域の冬の祭りには自然を利用するという特徴がある。旭川と札幌の場合は，積もった雪で雪像や雪だるまを作るなど，悩みの種である雪を芸術品として蘇らせ，祭りに活用している。層雲峡の場合には，河川の水を凍らせて巨大な洞窟のような氷城を作り，多くの観光客を誘致している。

もう一つの特徴は豊かな食べ物である。特に札幌雪祭りは世界3大冬祭りの一つであり，規模も大きく訪問する人も多い。そのため会場内には，多くの食べ物屋が並んでいる。札幌雪祭りのメイン会場である大通公園付近には，札幌駅やススキノといった北海道最大の繁華街があるにもかかわらず，会場内に多くのフードゾーンがあることは驚きであった。

北海道の祭りについて学び感じたこととしては，祭りには，食べ物ブースが欠かせないことや，近隣の都市や住民が積極的に参加，協力することである。市民の積極的な関わりが行事を成功に導いている。水原市の場合，お祭り会場周辺の商店等

による反対活動が起こる。旭川市の場合、会場周辺の商店等をお祭りに積極的に参加させている。

イベント会場周辺商店との長期的なコミュニケーションを通じて、会場周辺の商店等も含めた総合的な市民参加を実現することで、満足度の高いイベントが可能になり、これが将来的に地域経済の発展につながる。

除雪について

旭川では11月から多くの雪が降り始める。毎年たくさんの積雪があるため、除雪も体系的に行われている。自宅前の除雪は自分でというルールと安全に対する市民の意識が基本となり、除雪作業が行われている。

旭川市では環境に配慮し、高速道路以外の場所で塩化カルシウムを使わない。また駅前や市民の往来が多いところでは、ロードヒーティング(Road heating)システムを採用し、雪が積もらないようにしている。水原市ではいつからか塩化カルシウムを撒くのが除雪作業の柱になった。これは環境に悪影響を及ぼし、市民の苦情にまで発展している。

	
ロードヒーティング機械	ロードヒーティング

道路の除雪は、雪を除雪車で道端に押し出し、交通の邪魔にならない場所に雪の山を形成するように行う。

一般的に日本では、冬に対する備えを自らしなければならないという認識がある。冬季期間には各家庭でタイヤを冬用に変え、スピードを落として走行する。このような市民認識へと短期間で変えるのは難しいが、水原市でも少しずつ塩化カルシウムの使用量を減らし、市民意識を変化させる必要がある。

ロードヒーティングシステムも導入すれば必ず良い成果が上げられると思う。旭川市は現在、人手の多い駅周辺と橋の麓に設置し、運用している。

また、旭川市では除雪に関わる作業の民間委託を行い、除雪作業は専門業者が行っている。専門業者による除雪作業は、除雪作業の危険性を減らし、より迅速かつ専門的に行うことができるため、水原市でも除雪作業の民間委託化は取り入れるべきだと考える。

姉妹都市韓国水原市交流公務員 池佳瑛さんを受け入れて

自治体名	北海道旭川市
研修員名	池佳瑛
出身国	大韓民国
研修分野	行政
研修期間	約12か月
主な研修先	都市交流課ほか

1. 背景・目的

旭川市は、平成元年に韓国水原（スウォン）市と姉妹都市を提携し、代表団の相互派遣をはじめ、行政、スポーツ、文化、教育等様々な分野で活発な交流を継続している。

両市の職員相互派遣研修は、平成6年度から15年度まで実施後、一時中断を経て、平成24年度に再開。平成25年度からは両市の友好交流や地域活性化の一層の促進を図り、両市の交流の架け橋となる人材を育成することを目的に自治体職員協力交流事業を活用しているところである。

今年度は、水原市から池佳瑛さんを受け入れて研修事業を実施した。

2. 研修概要

韓国文化紹介・・・旭川市民及び児童、生徒に対する韓国文化や、韓国伝統の遊び及び韓国語講座といった国際理解教室、韓国料理教室、韓国絵本の読み聞かせなど

施設視察・・・・清掃工場、リサイクルセンター、旭川市動物愛護センター、各種スポーツ施設、空港事務所など

行政制度・・・・都市交流課、公園みどり課、交通防犯課、旭川市動物愛護センター、公民館など

通訳翻訳業務・・・（本市の事業）旭川市水原市青少年交流事業、旭川市水原市市民マラソン相互交流事業、水原市代表団来旭
（その他）街頭放送録音

3. 事業実施にあたって工夫、苦労したこと

旭川市にきた当初、日本語能力試験4級であったため、日本での生活や、職員とのコミュニケーションに対し不安が多かった。そのため、研修前半は日本語の勉強の時間を多くし、施設見学など見て理解しやすい内容を多くし、行政研修などは後半に行うように計画した。また、研修員は人前で話すことや創作することが得意であったため、研修員が得意な分野の本市の業務を担当してもらうなど工夫して研修を行った。例としては、以下のとおりである。

1点目は冬まつりの研修である。旭川市では毎年2月に旭川冬まつりという雪を

生かした祭りがあり、本年も行われたが、今回は第 60 回と節目の関係であったことから姉妹都市の国に関連した雪だるまの制作の業務があり、韓国をイメージした雪だるまの制作を担当してもらった。具体的には、雪だるまのデザイン、試作品の作成、必要な材料の購入、雪だるま制作、設置等である。デザインから作成まで研修員に依頼したため、とても韓国らしい雪だるまになった。そのことは、雪だるまを撮影する人も多かったことから明らかで、来場者にも喜んでいただけたと思う。

また、冬まつり会場での韓国語のアナウンス（録音）では、韓国でのアナウンス経験業務に当たってもらった。

2 点目は、国際理解教室での講師である。本市の児童や生徒に対し、パワーポイントで韓国文化について紹介した時は日本語が流暢ではなかったため、担当者が通訳しながらの説明であった。しかし、苦手な日本語をカバーするため、小学生に紹介する時には一緒に韓国語の歌を歌ったり、中学生に紹介する場合には韓国の伝統の遊びを盛り込むなどして、一緒に楽しめる内容にするなどの工夫を行った。本人のキャラクターもありどちらも非常に盛り上がった。小中学生にとっても韓国や海外へ関心を持つ第一歩になったと思われる。



研修員制作の冬まつり時に飾られた
韓国をイメージした雪だるま



児童に対し韓国の説明をする研修員

4. 成果

研修員は日本語の能力が高いとは言えなかったものの、韓国文化についての講座の講師としても活躍し、本市と水原市の姉妹都市交流について旭川市民が知る良いきっかけにもなるなど本市の国際理解に寄与したし、本市の業務も担当するなど大変助けられた。

一方で、日本語だけでの研修が難しかったかもしれないが、通訳できる担当者がいない場面での研修を増やし、母国語が通じない中での経験をもっとしてもらっても良かったかもしれないと感じている。

研修員は帰国後、この研修の経験を生かして、両市の交流の架け橋となり、活躍してくれるものと期待している。

Research and learn about capacity and experience in modern agricultural management of Kasama city government, further strengthening of good friendship between Son La province and Kasama city

- 氏 名 (Name): DO NGOC TU

- 出 身 国 (Country): VIETNAM

- 受入自治体 (Host Institution):

Kasama city, Ibaraki province

- 研 修 先 (Training Facility): Kasama city government

- 市役所・課 (Name of specific department/division/facility where s
training was held): Agriculture Public Corporation, Agriculture Adm
Division



1. Reasons for applying for this program

The relationship between Vietnam and Japan has developed strongly and it is a good traditional relationship to develop together. In the future, the relationship continues opening up new opportunities for exchange and cooperation. To continue to develop that relationship, I find that the relationship in the localities of Japan and the localities of Vietnam is very important and needs to be further strengthened.

In Son La province, I work at the Department of Agriculture and Rural Development with the main task of advising leaders on policy formulation and agricultural management. Therefore, I want to research and learn about modern agricultural management where there is a high level of reform, find out about unique culture of Kasama city and further enhance the exchange and cooperation between Son La province and Kasama city about economy, culture, society etc.

2. Summary of Training

2.1. Training at Tokyo city (time: 03 days): Learn about some of the most basic points to keep in mind when coming to Japan; meet with the host organization; get to know the members of the training course; visit some locations in Tokyo city.

2.2. Training at the Japan Intercultural Academy of Municipalities (JIAM) (time: 01 month): Learn Japanese and learn some common skills and knowledge about life, culture, politics, economic etc in Japan, this is a very professional training venue. Here I was able to attend a party about Japanese tea making, since I was a child in Vietnam, I have been told about Japanese tea ceremony culture and today I have seen it with my own eyes, it is very interesting and unique. I also experienced life as a Japanese citizen by living in a peasant

family in Shiga province, which was a wonderful experience. Besides, I also visited the ancient capital of Japan Kyoto city.

2.3. Training about agriculture manages in Kasama city (09 months): In Kasama city government (Agricultural Public Corporation, Agriculture Administration Division), agricultural organizations and farmers. I also attended some studies tour in famous places of some cities such as Ibaraki province (Tsukuba city, Mito city, Fukuroda district), Tokyo city, Tochigi (Nikko city).

*Training at the Agricultural Public Corporation, the Agriculture Administration Division:

Learn by doing the daily professional work of an agricultural staff. Find about the function, task, obligation, method, administrative procedures, working styles of leaders and employees of government of Kasama city, in which I am very interested and learn how to solve problems of Agricultural Public Corporation, Agriculture Administration Division for Kasama's farmers.

I learned about Japan's agricultural organization system, agricultural organization system of Ibaraki province, and legal documents related to agriculture. I also spent the time to learn about Kasama City's economy, politics, culture, society, natural conditions etc.

* Training at some local agricultural organizations and farmers

Training at IKOMA Rice center: Participate in working and practicing some organic rice production stages, learn about organic rice production process.

Training at Agricultural vocational and practice school: I work on dry sweet potato production, I learn about the history, organizational structure and duties of the Agricultural vocational and practice School, learn the fields that the school produces(rice production, dairy farming, pig breeding, bread making, etc.).

Training at Ibaraki Agriculture Research center: Participate in learning and practicing tree pruning, learning how to protect trees for agriculture plant. Learn the organizational structure, functions and tasks of the center.

Training at Yoshiro Wakui organic farm: Participate in working and practicing organic vegetable production (harvesting, packaging organic vegetables), learning how to rotate, intercropping, seasonal vegetables and cultivation techniques, organic vegetable production system.

* In addition, learn some typical agricultural farm models of Kasama city: Kasama Kleingarten ecological garden house, organic tomato farm, flower farm, chestnut farm, agricultural product sales system, etc. Join many festivals bearing Japanese culture.



Study tour in Nikko city (Tochigi province)



Production of dry sweet potato



the ceremony accept to trainee of Kasama city

3. Plans upon returning to my home country. How would I apply what I have learnt on the program?

3.1. Plans upon returning to your home country

During my study in Japan, I have achieved the goals set out. With the knowledge I learned in Japan, I will focus on the following issues:

- * Introducing about Kasama city, a friendly, potential city, a highly reformed model for districts of Son La province to learn.
- * To advise the Son La provincial authorities on appropriate agricultural policies, develop strategies and plans for effective agricultural development. Advise farmers to take initiative in implementing effective farming practices.
- * Proposing, advising on improving agricultural management capacity for state

management agencies to perform agricultural functions and tasks, namely: department of Agriculture and Rural Development Son La, department of Crop and Plant Protection Son La, Agricultural Extension center, division of Agriculture and Rural Development of districts.

- * Proposing and advising leaders to further improve farming practices, processing methods and branding for farmers. Well implement the goal of improving people's income while protection of the environment, and adapting to climate change.

- * Promote tourism development in combination with specific agricultural production of each locality.

3.2. How would I apply what I have learnt on the program?

- * Organize seminars, meetings for farmers, civil servants, students etc of Son La province to introduce about Japan, about Ibaraki province and Kasama city such as unique culture, people friendly, modern agriculture, natural conditions, professional working style of office staff, scientific administrative procedures, etc. Maintain regular contact with agricultural divisions of Kasama city government to exchange information with each other about the development situation of Son La province and Kasama city.

- * Advising leaders on administrative reforms, especially building administrative procedures to serve people at the state management agencies of provinces, districts and commune.

- * Develop and implement models of organic production for rice, vegetable and fruit trees (for example mango, avocado, plum, apricot, passion fruit, coffee etc).

- * Develop and implement models to apply greenhouses; How to plan agricultural production areas (ensure the land fund for the development of specific crops)

- * Develop and implement models of field sweet potato production and dry sweet potato processing for household scale.

- * Develop and implement an effective fruit tree production model by controlling height (pruning, grafting), covering fruits, using biological trap, making use of available organic fertilizer materials, reducing the use of pesticides. For this model, priority is given to fruit growing areas on sloping land.

- * Develop ecotourism models associated with restaurants or local agribusiness systems

自治体事業報告書

「協力交流研修員トゥさんの受け入れを実施して」

自治体名 茨城県笠間市
研修員名 DO NGOC TU（ドウ ヌゴッ トゥ）
出身国 ベトナム社会主義共和国
研修分野 農業
研修期間 11か月（来日時点からの月数）
主な研修先 笠間市農政課・（一財）笠間市農業公社

1 背景・目的

笠間市では、幅広い分野における国際化の推進に積極的に取り組んでおり、陶芸を通じたタイと交流や、インバウンド誘客のための台湾事務所の開設、ドイツ・ルール市と友好都市協定の締結などを実施している。市農政課及び（一財）笠間市農業公社では、平成 26 年度から NPO 法人国際農民参加型技術ネットワーク（IFPaT）と共に「草の根技術協力事業」を実施。ベトナムのソンラ省及び同省タイバック大学との協力で「ベトナム中山間地域における農業活性化による農村生計向上プロジェクト」に取り組み、交流を重ねてきた。平成 29 年度にこの事業は終了したが、これまでの交流を継続し、国際化をより一層推進させることを目的に、本事業を活用し、ベトナムのソンラ省から協力交流研修員の受け入れを行った。

2 研修の概要

笠間市での研修は、6 月 22 日から 3 月 31 日にかけて、（一財）笠間市農業公社での研修を中心に実施した。農業公社では、日常業務の中で、日本の農業に携わる各組織や部署の役割や関係性、日本の組織文化について理解しながら、市内の生産者や関係機関での実践的な研修を行い、農業技術について学んだ。また、地域行事である「笠間のまつり」に参加するなど、文化体験も行った。茨城県外についても知見を深めてもらうため、栃木県および東京都での視察研修を実施した。

研修以外では、市の無料の日本語教室に参加し、市関係者以外の日本人・外国人とも交流を重ねた。

【市内生産者・関係機関での研修内容】

- ・「NPO 法人あしたを拓く有機農業塾」にて野菜の集荷・出荷・整地・植え付け作業
- ・「日本農業実践学園」にてさつま芋（紅はるか）の干し芋製造・里芋収穫作業
- ・「茨城県農業総合センター」にて栗の剪定実演・実習に参加、栗栽培者講座を受講
- ・「茨城県農業総合センター」にて病害虫の予察調査に同行

- ・「生駒ライスセンター」にて稲刈り・乾燥・粃摺り・袋詰め作業研修
- ・県外視察研修…栃木県にて「道の駅うつのみや」「日光東照宮」視察
…東京都にて「豊洲市場」「東京タワー」「明治神宮」視察



水稻の病虫害予察調査に同行



調査内容について説明を受けた

3 研修実施にあたって 工夫、苦労したこと

住環境や職場環境には、大きな問題なくとけ込んでもらえた。研修を円滑に進めるにあたっては、言葉での説明がうまく伝わらないことが大きな壁となり、苦労した。

研修員の日本語能力は、ひらがなが読める・数字が分かる程度のため、笠間市国際交流協会の日本語教室に通えるよう調整を行った。ここでは、クリスマスパーティー、料理教室等のイベントにも参加しており、研修以外で市民との交流も持つことができた。

研修では、言葉で理解してもらうのが難しいため、実際に見て・動いて学べる内容となるよう、病虫害の予察調査への同行や稲刈り等の農作業での研修を行った。外での研修がなく事務所にいる場合は、農業関係の資料を日本語に翻訳し、日本の農業について自主的に学習していた。その上で不明点があれば質問してもらい、その都度回答していた。

研修員とは頻繁にメール等を使用して連絡を取り、困ったことなどがあれば随時連絡をもらって対応していた。

4 成果・課題

研修員が自国で農業指導を行うにあたって、特に農作物と環境の両方を守ることのできる有機農業を学び指導していきたいとの希望があった中で、研修では有機農業を実践している法人に栽培指導を受けるとともに、畑の整地や苗の植え付けなど現場での実践も多く積むことができ、今後の自国での業務に活かせることと考える。

また、日本のハイレベルな農業技術を学び、自国での農業に活かしていきたいとの希望もあり、各研修内容の中では、様々な日本の農業を経験することもできた。例えば、干し芋の製造研修では、食べた干し芋がとても美味しく、自国に戻ってから研修した製造方法を実践していきたいとの意欲がみられ、また野菜の出荷作業の研修では、収穫した野菜の包装までの過程がとても勉強になったとのことだった。

一方、栗の剪定実習では、剪定の方法が自国のマンゴーの木の剪定の方法に類似しているとのことで、的確に作業を行っており、日本と自国の農業の類似点にも考えさせられる場面もあった。

約9カ月間の笠間市での研修の中で、研修員との信頼関係を築くことができた。この関係は、本事業を実施した目的の一つであり、研修員が今後も笠間市とベトナムとの交流の架け橋となってくれることを期待している。

この1年間の経験が、研修員の今後のキャリア・人生の中で、大いに活かされることを願っている。

高山市での研修を振り返って

氏 名 黄 俊 (ホアン ジュン)
出身国 中華人民共和国
受入自治体 高山市
研修先 JIAM、高山市役所、高山市赤十字病院



「研修の理由」について

中国麗江市から来た私は麗江市人民病院に勤めています。主な仕事は地元患者の医療治療、疾病の予防と管理に携わっています。麗江市人民病院は麗江市で最大の総合病院ですが、病院の発展の中、様々な面における不足点が判明され、それらによってもたらした問題と衝突が発生します。例えば医療サービスにおいて、医者と患者の関係が悪化しつつ、重大かつ複雑な疾病の治療能力の不足などの諸問題を抱えているのである。日本の医療は世界ではトップクラスの代表として発展しているので、こんな土台を借りて日本へ医療の研修に来たわけです。ここで主に医療体制、管理や医療技術などを学びます。高山市と麗江市の友好都市関係のおかげで、来高して研修する機会を得たことに感謝しています。同時に日本国際協力組織のご手配にも感謝しています。

「学習」について

・オリエンテーション

私たちは2018年5月20日来日したのである。その時から私の忘れがたい日本での生活を始めました。20日から24日にかけてCLAIRの職員が日本の社会体制、政府機構、文化、施設やマナーなど日常生活の遵守事項を説明してくれ、日本へ一定の理解を得て、その以降の日本生活にかなり役に立ったのである。

CLAIRの職員が東京見学も手配をして

くれました。25日に私たちは新幹線で

JIAMに移動しました。JIAMは滋賀県唐崎町にあるとても静かなところですよ。

ここで日本語の能力の個人差でそれぞれのクラスに分けて日本語を勉強しました。優しい日本人の先生が約1か月日本語の指導をしてくれ、私の日本語もかなり上達できました。日本語の勉強以外に面白い授業も受けました。例えば、日本の茶道文化、防災知識とその訓練基地への見学、日野町でのホームステイなどなどありました。それらのおかげで、日本文化や風習へ理解を深めまし



JIAMでの研修の様子

た。短い期間でしたが、私は先生、その他の研修員と CLAIR の職員と深い友情を結びました。

・個別研修

私は6月24日に高山に着いて、高山市海外戦略部の同僚より暖かく迎えられました。その後、市長への表敬訪問も手配をしてくれ、自分が歓迎されている暖かさを実感できた。私の研修は医学研修で、7月3日から研修場所である高山市日赤病院につきました。病院側も変わらずに温かく歓迎してくれました。外科の皆さんがとても親切で友好で、家族のようなつきあいをしてくれました。短い交流だったけれど、親しい交流になりました。医学研修について以下のように三つにまとめました。

1. 医者との関係、医者同士の関係、医者との関係

病院全体について

7月3日に高山市日赤病院に正式に入り、最初に得たイメージは冷たくて見知らぬところではなくて、優しさと温かさに包まれたところだったということです。入口に丁寧に案内してくれる係員がいます。病院には様々な設備が目に入りました。待合室にはベンチが数多くあり、場所によって展示品が陳列されています。自然風景の写真やぬいぐるみ、鮮やかな花、小学生の作品、人形などなど。それらの展示物は季節によって調整されています。待合室でテレビの鑑賞もでき、医療知識の冊子やパンフレットなどがあり、疾病の解説は主に漫画と文字で表現されています。至る所で人々が挨拶を交わし、病院入口で患者さんを出迎えながら、親切に案内を行っています。体が不自由な患者さんが見えたら、車いすを用意してあげたりします。8か月の研修期間に顔を合わせる度に笑顔と優しいご挨拶が変わらぬものです。こうして病院内の雰囲気や環境、患者さんへの支援方法や漫画式の表現方法、お互いの挨拶と尊重を通じて、各方面から患者さんの不安解消に努め、患者と医者の信頼関係を深めたのである。

医師が患者に問診する際に頻繁に患者の感覚を聞き、できるだけ患者の焦りと苦痛を減らしながら患者を励まします。医師が毎日頻繁に入院患者の回診をし、少なくとも1日に3回です。回診する時に患者の近況と要望を聞いて患者からの質問に答えたりします。外傷の手術を施す前に、患者へ治療方法やその後のリスクなどを十分に説明し、患者にも自身の状況をよく理解してもらう上に家族と話し合う時間を十分に作ってあげます。それらの工夫を通じて、患者自身がスムーズに治療を受けて、患者と医師の隔たりを解消させるのである。

治療中には、看護師は、ただ患者の病状を観察するだけではないのである。病院の面会時間が決まっていて、患者の家族も病院には長く滞在できないことで、患者と接する時間が最も長いのは看護師です。

看護師の業務はとても忙しいです。例えば、バイタルサインチェック、点滴、カルテ記録、担当患者の検査予約と検査、入院患者の食事、入浴、排泄の補助、患者の外出とリハビリの補助などいろいろあります。看護師は患者を家族の一員として接しています。患者に急に発熱、頭痛、吐き気と嘔吐などの症状が出たら、入院した際に医師がすでに3つか4つの治療方法の予備案を考慮

してくれ、看護師がその基準を観察しながら治療処置を行うことによって、医師の業務負担を軽減することになるのである。

手術室について

手術計画書が確定された場合には、手術の前日に患者の必要な機器や物品を準備し、手術室に入る前に手術チームメンバー（執刀医、助手、麻酔科医、外回りと器械出しの看護師）を患者に紹介する一方に患者のデータを再確認します。

手術前の準備について

手術の部位が露出するのにあたって、患者のプライバシーを厳守するように考慮する。麻酔をかけた場合に、消毒が必要な部位だけ露出し、その他の部位は保温処置する。挿入する手術（尿管ステント留置術、胃管など）はすべて麻酔をかけます。麻酔をかける前に説明と慰めを行い、治療中には身体的な慰めを与える。患者が手術室に入って手術が始まるまで約 40 分かかります。手術終了後に目覚めたら、患者は筋肉と意識が回復するまで十分な時間を作る。手術前に麻酔薬は基準に合わせ計算する。患者の身長、体重や年齢などによって患者への使用量を図ります。もし患者が幼児であれば、手術前に漫画、人形や音楽などを用意し、緊張と不安を和らげる。とにかく、患者の立場から見ると、それは合理かつ人情あふれる治療方法であり、患者の焦りと苦痛を軽減する。

患者が治療を受ける際に医師と看護師を信頼し、内服用薬と再診時間などの指示に従う。再診時間が半年まで伸びても、患者が予定通りに再診してくるようになっている。治療が難航する患者さんに対して、検査を繰り返しても治療法が確認できないまたは治療効果が良くない場合もあるが、患者さんの憤ることはほとんど見たことがないどころか、医師を慰める患者さんがいます。患者さんの立場から見ると、患者自身も疾病を十分理解し、自分自身の役に自然に入ったということで、医師によってその役に連れ込むことではなくて、疾病の診断および治療への理解も得られたわけである。

2. 医療技術

検査項目について

消化器内視鏡は検査以外に臨床治療にも幅広く使用されています。胃腸器悪性腫瘍において、消化器内視鏡によって腫瘍の大きさ、形態、生検、定位などを観察することができる。内視鏡を通じ、超音波検をすることによって、浸透の度合いを調べる。内視鏡を通じて早期の悪性腫瘍を切除する。胆道と膵臓の疾病には、造影によって胆道の進み具合を読み取れるし、膵臓液の収集や胆汁への細胞脱落検査や腫瘍標識物検査ができる。内視鏡を通じて、十二指腸乳頭の胆道を切開して胆石を取るか、胆道内にチューブを留置し、鼻から外へ出し胆管定位する。消化器造



高山赤十字病院

影は胃腸管の蠕動、腸管発達形態の

異常に限らず、内視鏡の補助のもと、空気と

造影剤の注入によって、胃腸管の腫瘍浸透

状況を観察することにも使用されている。腸管閉鎖症の患者が物理療法を受けている中、造影で小腸と胃管へ圧力を減らす事によって、腸閉鎖症の完治または胃腸管の改善で患者の症状を和らげる。

手術について

通常患者の検査を終えた手術の1週間前に、手術前の協議を行い、メンバーは外科医、看護師、麻酔科看護師、麻酔科医、栄養士、リハビリ医師、医療事務、薬剤師などです。患者の基本状況、検査や腫瘍の進展度を協議し、手術実施の案を作成する。すべての悪性腫瘍患者は手術前に手術実施計画書が決まり、切除範囲も予定されている。手術後、腫瘍を切除した写真や、手術の関連図形を内科と病理科に報告する。手術は厳格に行う。若手の医師は先輩医師の指導のもと、三級手術（胃腸管、乳腺悪性腫瘍の切開手術、腹腔鏡で胆嚢や盲腸の切除など）を行うことができ、若手医師のレベルアップに努める。

主に参加した手術は、胃腸管悪性腫瘍手術（切開と腹腔鏡）、肝臓悪性腫瘍手術、乳腺悪性腫瘍手術（全部または部分的な切除）、脱腸（開放と腹腔鏡）、血管手術、肺臓疾病（胸腔鏡下肺大泡切除、転移した周囲性肺がんの切除）、膵臓がん手術、腹腔鏡下胆嚢切除、腹腔鏡下盲腸切除、皮下深静脈の手術などなどあったのである。

化学療法、放射線療法、MTT療法と連合応用

治療の補助として、上記の療法で患者の生存率を改善していき、手術後に腫瘍が転移した場合では、化学療法の後にその他の病巣が早期転移したかを観察してから再び手術を決める。

手術前に患者の腫瘍が大きすぎるか併発転移のため手術不可能の場合には、化学療法と放射線療法をしてから再び手術を受ける可能性が出る。併発の上に多発的に転移のため手術不可能の場合には、長期的化学療法を行える。化学療法の効果によって、療法を変更する選択肢もある。

日本の救急119番は消防署の消防士が担う。消防士は定期的に病院で研修を行い、一定の疾病判断や救急救命能力を身に着ける。救急担当の署員は患者を病院へ搬送する前に患者の病状判明し、搬送距離によって救急救命の措置を取る。同時に患者の病状を分析し、病院へ報告する。病院の救急室には、心電図、超音波検査装置、レントゲン、AEDなどがある。救急室に隣接する通路の裏にCTがあり、設備が完備することは搬送された患者のリスクを下げて、病状をより早く把握できるようになる。もし重症患者が搬送される場合には、院内で放送し、当日の当直内科と外科医師と関係医師が救急室に集合し待機する、充分の救急人員が確保され、慌てずに対応処置を行う。重症患者の対応



高山赤十字病院での研修

について、JATEC という診療ガイドラインが用意され、母国の救急判断および治療選択より更に詳しいのである。

栄養管理について

患者が入院してから患者の給食は病院によって管理されている。病院側は患者の病状によって給食の献立を合理的に提供する。これらによって、規則正しく管理をし、患者が毎日必要なカロリーを摂取できる。摂取が足りない場合は、腸外栄養を考えられる。摂取が充分になる場合には、合理的に判断して、点滴や薬の

服用を止めることも考えられる。器官効能の悪化するリスクを免れる。飲食による疾病を明確に排除することができる。患者家族の介護の負担を軽減する。

リハビリテーションについて

日本の患者は主に高齢者であり、部分的な運動機能が衰える中、患者は手術後にリハビリテーション科のスタッフの補助を受けて徒歩とトレーニングなどを行い、寝たきりの患者が自主的に快復することを手伝う。胸腹部の手術を受けた患者が併発的疾患にならないこと、入院時間を減らして治療コストを下げるように心がけている。

麻酔と鎮痛

本病院外科医師は麻酔と医療観察の能力を身につけるべきである。患者の麻酔使用量は厳格に制限され、患者の年齢や体重に基づき薬の容量を計算して使用する。

3. 医療システムとその特徴

病院のスタッフの仕事は多様化で、分業化している。各自それぞれ果たすべく責務を定刻に成し遂げる。一人の患者が入院から退院まで主治医を含むいろいろなスタッフに関わった可能性があるが、引継ぎがはっきりしてスタッフ同士に迷惑をかけない。院内の連携が順調に進み、医療ミスが減り、結果的に患者を治療する条件を整える。

患者の治療情報は一つのデータベースに保管され、電子カルテは随時更新し、ペーパレス化管理を行っている。電子カルテによって、患者の入院及び外来などの病歴や資料を調べられ、患者の診断と治療を記入した経緯も調べられる。

急患以外に、全ての治療は予約制を実施している一方、患者も治療時間に協力する。それによって治療中に患者にも十分な考える時間を与える。医師も自分の仕事をより合理的に調整し、より良い医療サービスを提供する。日本の医療保険では、外来患者と入院患者は同様に清算する制度を設けられている。全ての患者は手術 1 日か 2 日前に入院し、あらゆる検査、疾病通告、治療計画やリスクの伝達は外来によって実施する。

患者が病状を発覚してから入院までおよそ 20 日間が必要である。患者も自身の状況と今後の治療リスクを認識することができる。医師も患者のために十分な準備を行う。例えば、疾病資料の検索、科内の協議、手術計画の決定と手術後の治療計画などなど。

治療行為は規則に基づき着実に実行する。手術（術前準備、病巣切除範

囲、清浄範囲）と化学療法（企画案、用量選択、取り換え）を NCCN のマニュアル通りに行い、医師がみんな真面目に仕事に努め、治療規則を遵守し、奉仕は日本の医師には日常茶飯事です。

院内はネットワークシステムを整え、院内連絡は P 機によって行う。各科が院内ネットワークに対応する知識を持ち、科ごとに各種疾病の治療マニュアルと治療企画を保管し、共有している。病院内に各種類の小冊子（入院手順、血液ガス分析装置の使用法、常備薬のリスト、抗凝固剤と使用停止時間など）が置かれ、内容も分かりやすく、仕事の効率向上に役立つものでもある。

各科が定期的に外国の学会書籍の勉強会を行ったり、毎週に専門講座を開いたりした上に議論し、チームワークを高める。医療ミスや医療事件に対して、患者に不利益が発生しなくとも、各科が議論し、二度と発生しないように対応策をまとめる。

帰国後の計画

日本での研修がもうすぐ終了します。このような研修の機会をいただき、あらためてとても幸せと喜びを感じています。日本で猛暑の夏、涼しい秋と極寒の冬など三つの季節を過ごしてきましたが、日本の文化や生活と風景を知ることができました。10 か月の研修を通じて、自分自身の足りないところと今後の取り組む方向を認識でき、得るところがとても多かったのです。

麗江市人民病院は当市の最も重要な病院の一つとして位置づけ、複雑化する医者との関係、医療の質が高くないなど様々な問題に直面しています。私は帰国してから高山市日赤病院で研修生活を当病院の上司にしっかりと報告し、当病院もいい方向に向けて発展し、患者により優れた医療サービスを提供できるように努力していきたいと思います。今後とも高山市と麗江市が友好都市とした友情が末永く続けるように願っています。ありがとう！高山。

LEARNING IN JAPAN

NAME : HENRI MAURO HUAMAN
HUAMAN.

COUNTRY : REPUBLIC OF PERU.

HOST INSTITUTION : TAKAYAMA CITY.

TRAINING FACILITY : SOLID WASTE MANAGEMENT, PLANNING OF
CITIES AND TREATMENT OF WASTES WATER.



1. REASON FOR APPLYING FOR THIS PROGRAM

Being us connoisseurs of the wonderful population, its magnificent culture and the amazing millennial and contemporary knowledge of the country of Japan, I think that these are the reasons enough to describe the contribution of the country of Japan to the whole world and especially to countries, cities and towns that need it. Through this program the people of other countries can acquire knowledge and experiences that can be applied mainly to the benefit of the population.

2. SUMARY OF TRAINING. WHAT DID YOU LEARN?

In my sty in Tokyo/JIAM was very important to know about the culture, customs, way of life, the language and the food in Japan but above all was amazing to share that time with friends from different countries brothers.

The first thing I learned in the Takayama city is about the solid waste treatment from the selection and separation until the recycle processes of the different types of solid waste so also about the landfill and incineration process, all these processes are important to have a city clean and healthy.

Renewable energies are good practices in favor of the environment and help families to have a better quality of life for example the use of solar energy for

lighting and hot water production. The use of the pellets with a proper management of forests also become an alternative energy for the population that in addition to generate heating to households is also a sustainable activity because the activity of production of pellets cares for the environment and generates economic income to population.

Takayama is a tourist city, tourists who visit the city of Takayama are very happy because the city offers the services that are necessary for the stay of the visitors in the city is comfortable. Tourists in Takayama have hotels and traditional Japanese inns (Ryokan), restaurants with food very delicious, craft shops, the Morning Market near to Miyagawa River, Takayama old town and streets of the city where you can appreciate a city very clean and very safe.

The Takayama city has an urban planning very particular, where the care and the generation of green areas, conservation of its historic center, the care and maintenance of its tourist places are very important.

The streets and roads are signposted properly, the constructions have relation with the environment of the scenery of the city, both in height and in form. The growth of urban of the city is orderly and they are provided with the water services, sewer pipe, electricity and routes of communication.

The health of the population and the care of the environment are the fundamental reasons for the implementation of the sewer system and the wastewater treatment plant of the city of Takayama that has 40 years at the service of the city. The wastewater Treatment Plant of Takayama City uses the activated sludge method and is designed to process 40,000 m³/day of residual water from which a clean, clarified and harmless water is obtained for the environment.

As a result of wastewater treatment is also performed the treatment of sludge, this treatment allows to obtain biogas through the sludge to be entered in a

biodigester to then the sludge can move to a process of dehydration and then finally be incinerated. The biogas is used as a biofuel for vehicles and the ashes of incineration is used in the manufacture of bricks for pavements.

My stay in the town of Takayama also allowed me to get to know other cities, participate and witness traditional events and cultural, know its main tourist attractions, enjoy gastronomy and the products of the area and to be able to practice and participate in sports activities.

3. PLANS UPON RETURNING TO YOUR HOME COUNTRY. HOW WOULD YOU APPLY WHAT YOU HAVE LEARNT ON THE PROGRAM?

The first step in order to develop what is learned is to establish planning documents that contribute to the city management, in order to improve the diverse needs of the population.

One of the ways to apply what has been learned is transmit and teaching the people the experience and knowledge acquired in the country of Japan and the city of Takayama, which help us to identify solutions to our needs according to our reality.

In relation to solid waste we will put into practice the basic but important activities that are the selection and separation of solid waste in households, then we will start with recycling activities and continue with the incorporation of Processes and techniques that improve the control and better disposition of solid waste.

We will begin with the preparation and implementation of a sustainable plan that will help to strengthen our forests through the planting of trees, to help the conservation of the environment, the production of biomass and the population can have economic income.

We need to plan our city by prioritizing areas greens, the care of the historic centers and the improvement of services for the population and visitors. The

planning of tracks must be oriented to the use of transport systems alternatives as the bicycle, to reduce pollution by emission of pollutants.

To achieve these objectives is needed to perform a joint work and continuous involving the municipality, public and private organizations, company of the city and all the support and work of population.



LGOTP 2018



Miyagawa River



Concrete and Asphalt Recycling Center



Festival de Otoño



Chlorinator of a small wastewater treatment plant



Public Transport

TAKAYAMA - JAPAN, FEBRUARY 2019.

「高山市の自治体職員協力交流事業の活用について」

自治体名	岐阜県高山市	
研修員名	① 黄 俊 (Huang Jun)	② Henri Mauro Huaman Huaman
出身国	中国	ペルー共和国
研修分野	医療	ごみ処理・都市計画・ 下水処理
研修期間	10 か月 (来日時点からの月数)	10 か月 (来日時点からの月数)
主な研修先	高山赤十字病院	海外戦略課・生活環境課・環境政策推進課・都市整備課・ 下水道課

1 背景・目的

高山市と中華人民共和国・麗江市は、美しい山々に囲まれた旧市街地に木造の伝統建築が美しく保全されているという共通点を有することから交流を開始し、平成 14 年 3 月に友好都市提携を結んだ。平成 16 年に第一期生の受入を開始し、平成 30 年度までに同市より計 21 人の研修員を受け入れており、観光、農業、畜産、教育、文化財など、幅広い分野で実践的な研修を実施してきた。また、平成 27 年には市内病院と協定を締結し、以降毎年麗江市から医師の受入れを行っている。

高山市とペルー共和国・ウルバンバ郡とは、平成 23 年 4 月に当時のペルー大使より高山市とウルバンバ郡との交流について提案されたことを受け、平成 25 年 8 月に友好都市提携を結んだ。平成 27 年に自治体職員協力交流事業を活用し、ウルバンバ郡から研修員の受入れを開始。平成 30 年度の受入れで 4 代目。研修員はウルバンバ郡の課題でもある環境対策や都市計画に重点を置いて研修を行っている。

当市においては、平成 24 年 2 月に海外戦略ビジョンを作成し、国際観光や輸出、国際交流を、相乗効果を発揮しながら一体的に推進していくこととしている。本研修事業についても、同ビジョンに位置づけられる「姉妹・友好都市との絆の強化」を図るための事業の一つとして実施されており、職員の受入を継続することで、帰国後も研修員が両市の架け橋となって相互交流を強化していくことを効果として期待している。

2 研修の概要

① 黄 俊

中国麗江市からは医師を受け入れているため、市内病院での研修を行った。黄 俊さんは派遣元の麗江人民病院では外科医として勤務しており、市内病院でも外科を中心に研修を行った。また、同院は外国人患者の積極的な受入れを行っており、中国人患者が搬送された際には、黄 俊さんは通訳としても活躍した。

② Henri Mauro Huaman Huaman

研修は、環境、都市計画、下水処理の分野で実施した。Henri さんの出身地であるウルバンバ郡ではごみ処理の問題を抱えているため事務的な研修だけでなく、本人の希望もあり資源リサイクルセンター（環境）、上下水道施設の見学（水処理）など現場研修も行った。屋内での研修としては、過去の研修員のレポートを読んだり、それぞれの部署で与えられた課題やテーマについて研究するということを実施した。

3 研修実施にあたって工夫、苦労したこと

① 黄 俊

今回の訪日が初めての海外渡航であり、本人も最初は不安が大きかったようだが、来日直後の日本語研修で日本語の学習をしたり、他の研修員との交流をすることで少しずつ環境に慣れていった。中国からの日本語が堪能な国際交流員も同時期に当市へ派遣されており、生活面ではサポートを受けた。また、日本国内でも医療行為が行えるように国から外国医師の臨床修練許可を取得し、受入先の病院とも協定書を締結することでスムーズな研修が行えるように配慮した。休日にイベントや祭り等が開催される場合は、ペルーからの研修員とともに参加してもらい日本や当市の文化に触れてもらった。

② Henri Mauro Huaman Huaman

日本語能力の問題から研修実施にあたり苦労する面も多かったが、研修先の資源リサイクルセンター等で通訳アプリを活用した言語面のサポートや、作業工程の図、前年度の研修生からの引継ぎ資料を活用することで、理解していただけるようサポートを行った。本人も翻訳アプリを、コミュニケーションをとる際や日本語の資料を読む際に活用していた。また、本人や派遣元自治体の希望を最大限取り入れ、体験型の研修もなるべく取り入れることで効果的な研修になるように努めた。加えて、当市国際協会では平成 29 年度から開始したスペイン語講座に補助役として参加していただき、スペイン語を通じ、受講生との交流を深めた。スペイン語講座では、料理教室も開催し市民

との交流を図るとともに日本語講座にも生徒として受講してもらい、日本語能力向上のため勉強をしてもらった。休日にイベントや祭り等が開催される場合は、中国からの研修員とともに参加してもらい日本や当市の文化に触れてもらった。



黄俊さんの市内病院での研修の様子



Henri Mauro Huaman Huaman さんの資源リサイクルセンターでの研修の様子

3 成果・課題

平成 30 年度も当事業を実施することができ、両自治体と当市をつなぐ職員がまた 2 名増え、高山市と両都市をつなぐネットワークの強化を図ることができた。ペルー共和国・ウルバンバ郡から受け入れた研修生に語学講座に参加していただき、研修員の母国語を活用できる機会を提供することで、活躍の場面を増やすことができた。また、当市国際協会で実施している日本語講座をさらに積極的に活用することで、研修員の日本語能力向上やコミュニティの形成に努めたい。今後もこのように研修員の受入を重ねることで、両市の絆をより深め、さらに広い分野での交流に発展させることが重要だと考える。

浜松市での研修成果及び今後の杭州市との交流促進について

名 前 徐俐

出 身 国 中国

受入自治体 静岡県浜松市

研 修 先 浜松市役所観光・シティプロモーション課



1 本事業に応募した動機

「上に天国あり、下に蘇州・杭州あり」ということわざがあります。杭州の西湖は有名で、景色はとってもきれいです。浜松市にも浜名湖があり、2つの都市は似ています。これに、私はとても興味があり、直接体験することにより浜松を通して日本のことをよく知るために、今回の研修事業に応募しました。

杭州市と浜松市は、平成24年4月6日に友好都市協定を締結し、それ以来6年間、両市の代表的な観光資源である西湖や浜名湖などの観光情報の相互発信強化をはじめ、幅広い分野での協力を推進しております。そのような中、今回、研修生として、観光・シティプロモーション課に受け入れていただけることとなりました。

私は、2011年に杭州市政府外事僑務弁公室で働き始めました。杭州市外事僑務弁公室は、民間レベルで交流するイベントを積極的に展開し、数多くの国の友好団体と交流関係を構築し、経済、貿易、教育、文化、観光、福祉、青少年交流など幅広い領域での交流を進めています。また、杭州市の国際環境づくり、そして経済社会発展に対しても大きな力を与えています。私は旅券発行、ビザ申請サービス、国際交流業務を担当しています。

こうしたことから、今回の研修はとても良いチャンスだと思いました。

2 研修の概要

(1) 全体研修

5月20日、日本に着いて東京で3日間のオリエンテーションを受けました。浜松市観光・シティプロモーション課の担当課長と面談して、浜松の研修の概要を教わりました。簡単な日本語レベルチェックした後、浅草寺など都内を視察して、東京の現代化を実感しました。

5月23日、滋賀県大津市のJ I AMで正式な研修が始まりました。花クラスに入りましたが、クラスメートと比べて、日本語は上手ではありませんでした。担当の先生のおかげもあり、一生懸命勉強して、テストでいい成績をとることができました。その研修中、日野町で初めてホームステイと茶文化を体験し、日本の家庭料理などの食習慣、生活習慣、伝統文化などを勉強することができました。全体研修は各国の研修

員と一緒になので、皆で、日本語と日本文化を勉強するだけではなく、友だちになることができて、いい体験でした。

（２）浜松市の研修

担当者の出迎えにより滋賀県から浜松駅に移動しました。新幹線を降りて、ヤマハのピアノの展示を見て、浜松は音楽とものづくりのまちであることを第一印象として感じました。また、この５か月の研修と、市民生活を通じて、浜松は歴史的観光名所というだけでなく、住みやすい都市と感じました。

着任後すぐ、鈴木市長に挨拶をし、観光・シティプロモーション課の研修が本格的に始まりました。課内での仕事は、主に中国との交流業務の担当です。具体的には、中国圏に向けて、浜松市の魅力を発信する方法を企画・提案しました。さらには、浜松市の観光・国際交流への取り組みについて学び、両市の「かけ橋」として、杭州市との観光交流を更に進めて行くことに努めました。

具体的には、音楽交流について、６月２５日から２週間、杭州市の音楽教師研修団の皆さんと浜松市の学校や工場や博物館を視察して、浜松市に音楽文化が根付いていることを実感しました。音楽について私は詳しくありませんが、この視察を通じて、浜松市は本当に世界的な「音楽のまち」であることを感じました。杭州市と浜松市は、新しい交流分野である音楽交流を通じて、これからももっと深く交流を続けていけばよいと思います。



（楽器工場での視察の様子）

更に、友好交流について、８月に杭州市で開催された、杭州 JAPAN BRAND 出展についての取材や１２月に開催された「一帯一路」の会議について杭州市と連絡調整をし、浜松市とのかけ橋として役に立つことができて嬉しかったです。７月２８日に、浜松市が杭州市で開催された日本ブランド展に参加することを杭州市の「杭州日報」と「都市快報」、２つの新聞会社の記者さんと連絡調整し、取材してもらいました。「杭州日報」は杭州政府主導の政治的な新聞ですが、「都市快報」は市民向けの生活新聞です。２つの新聞で同時に浜松市の観光、食べ物、音楽などいろいろなことを紹介することは、浜松にとっていいチャンスだと思います。実は、杭州市は消費情熱が高い都市です。住民は旅行、おいしい食べ物、買い物に興味があるので、このチャンスを活用することにより、浜松市の観光にとっての収穫があると思いました。

文化交流について、私は杭州市の代表として、浜松市国際交流の集いに招待していただきました。また、杭州市からの初めての研修生として、挨拶させていただけることはたいへん名誉なことでした。国際交流の集いを通じて、日本の伝統的な文化と社会に対する理解を深める一方、国際化の時代でもありますので、文化の交流を継続しなければならないと実感しました。

杭州市のPRについて、杭州市霊隠寺と便利な杭州市をテーマにし、浜松市職員向けに広報誌を作りました。浜松には浜名湖と館山寺があり、杭州市には西湖と霊隠寺があります。その紹介文の中で、お寺はきれいな景色だけではなく、文化もあることを紹介しました。そして、便利な杭州市のテーマでは、「ウェチャット」「アリペイ」「銀聯」の3種類を使えば、基本的に現金不要で決済の対応が可能であることを「食べる」、「出かける」、「買い物」、「住む」4つの事柄に分けて整理しました。



(杭州市PR広報誌の表紙)

観光交流について、東京都と新潟県で開催された2回の商談会に浜松観光のPRのために参加しました。商談会に参加することは初めてですが、市役所でも、営利企業同様に、各旅行会社に自己の観光特徴を紹介することは、特別なことではありません。東京での商談会の前には、鈴木市長が挨拶で、来年の大河ドラマは浜松を舞台に、2020年東京オリンピック・パラリンピックをテーマとして、浜松出身の水泳金メダル獲得者の物語であることを紹介していました。そして、講師である、浜松市やらまいか大使の田辺さんは大河ドラマの主人公の物語を紹介しました。新潟県の商談会は主に中国向けの旅行会社商談会のため、私は浜松市内のいろいろな観光名所、特徴、費用を覚えた上で、商談をしました。浜松を皆さんに詳しく紹介して、観光誘致することは私の責任です。

更には、接遇センスアップ研修に、7月と10月の2回参加しました。浜松市役所人事課による研修で、これは観光・シティプロモーション課の5月と9月の窓口と電話診断レポートの結果に対して、電話の応対と窓口の対応をご指導いただくものでした。私は、日本語の敬語が苦手で、職場での礼儀はわからないことが多いので、この研修はとても重要でした。9月の診断は5月に比べて評価が上がりました。この研修を受けて、課内では受付カウンターの整理などを実施し、とてもきれいになりました。職員の皆さんは電話を受けるとき、敬語を正しく使い、返事と相槌の数も増えたと思いました。10月の研修は、ふるさと納税についての接遇でした。私はお客さんとして対応しました。どこの職場でも、話しぶり、態度、表情、迅速さと適切な処理はとても重要です。私はこの研修を通じて、接遇センスアップは大切だと実感しました。研修期間だけ頑張るものではありませんので、今後も意識することが大切だと思いました。

観光事業について、課の同僚と一緒に、浜松市内の名所を観光しました。浜松自衛隊基地、うなぎパイ工場、秋野美術館、浜名湖、ぬくもりの森、フラワーパーク、ヤマハ工場、ヤマハイノベーションロード、浜松楽器博物館、中田島砂丘と浜松城、全部大好きな観光施設です。そして、ミカン狩りを体験して、名物のうなぎや、キャベツがたっぷり入った餃子を食べました。7月、担当課長と一緒にアクトシティで行わ

れたビジネスマッチング浜松2018を視察しました。ものづくりから輸送企業まで、「ものづくりのまち」を感じました。また、浜松の観光パンフレットを見ることで、いろいろなことを勉強することができました。今後、浜松に多くの外国人を誘客するためには、例えば、温泉を中心に、レジャーランド、鉄道、遊覧船、ロープウェイを利用して集客することも考えられます。そのほか、日本は交通費が高額なので、外国人を誘客するため、新幹線、JR、バス、高速道路定額乗り放題のいろいろな周遊券を広域で造成することはいいアイデアだと思います。

最後に、翻訳事業についてです。会場通訳として、杭州市音楽教師研修団、浜松学芸中学高等学校と青島労山学校の音楽交流会、浜松・瀋陽市青少年音楽交流会、浜松市と台北市観光交流都市締結五周年の記念コンサートに参加して、浜松市に根付いた音楽に対する学生たちの誇りと情熱を実感しました。音楽に国境なしということも感じました。皆さんとコンサートを鑑賞して楽しかったです。翻訳として、浜松市の観光パンフレット、観光PPT、浜松市の観光情報、浜松市の中国語のホームページなどを任されました。この仕事を通じて、市内の花、食、フルーツ狩り、歴史、文化、絶景、産業などを具体的に理解して、浜松市は「観光のまち」ということも感じました。国際課のお願いで、浜松市の中国語のホームページの確認作業をしたことは、私にとって、日本語勉強のいいチャンスでした。



(観光パンフレットの翻訳)

この仕事は、日本語を勉強すると同時に、浜松市の事情もよく知ることができるチャンスです。私は、この翻訳の確認することが大好きです。今日は「第二次浜松市多文化共生都市ビジョン」を勉強して、浜松市が本当に開放的な都市であることがよくわかりました。「多文化共生が国際的な人財を作る、心の国境を感じさせない都市」という未来の浜松市は、私も楽しみにしています。

3 研修の展望

今回研修生の体験を通じて、日本の文化と日本社会に対する理解を深める一方、現代中国を日本の皆様に紹介しました。帰国後、日本で身につけたノウハウを活かし、国の発展に役立てるように努力するとともに、両国の人々の相互理解を増進させ、心のかけ橋を築いていきたいと考えております。

最後になりますが、研修中にお世話になった皆様に深くお礼を申し上げます。本当にありがとうございました。

杭州市からの研修生受け入れ成果について

自治体名 静岡県浜松市

名前 徐俐

出身国 中国

研修分野 観光

研修期間 6ヶ月

主な研修先 浜松市役所観光・シティプロモーション課

1 背景・目的

本市では、海外からの交流人口の拡大を目指し、中国、韓国、台湾、タイなどをターゲットにした海外インバウンド事業を積極的に展開している。

そのような中、更なる交流人口の拡大と相互交流の促進を図るため、世界文化遺産「西湖」と「浜名湖」の湖つながりによる中国・杭州市と本市の友好都市協定を日中国交正常化40周年及び静岡県と浙江省の友好30周年に合わせて締結した。

具体的には、両市の代表的な観光資源である浜名湖と西湖を最大限に活用し、「浜名湖八景」や「西湖十景」などの観光情報の相互発信の強化をはじめ、両市の観光広報活動を積極的に支援すること、観光客の往来を増進させるため、観光機構及び観光団体・観光関連産業の交流と協力を積極的に推進し相互訪問の機会を提供すること、商用及び公務による往来の促進のため一般企業や経済団体間の交流を促進し双方における受入れ体制の整備を積極的に支援すること、青少年の観光関連事業への参加を促進するため交流機会の提供に努めること、多方面にわたる観光友好交流と協力を通じ両市の発展と繁栄を図ることなどを目的としている。

ついては、自治体職員協力交流事業（LGOTP事業）の活用により、協定の目的達成に寄与すると考えられることから、一般財団法人自治体国際化協会と連携し当事業を実施している。

2 研修の概要

＜主なスケジュール＞

- ・平成30年5月20日 来日
- ・平成30年5月20日～5月23日 東京都でのオリエンテーション
- ・平成30年5月24日～6月21日 滋賀県等での日本語研修
- ・平成30年6月21日～11月20日 浜松市での実務研修
- ・平成30年11月20日 帰国

＜主な研修内容＞

- ・ 杭州市音楽教師派遣団の随行、通訳
- ・ 音楽や産業を通じた中国からの学生教育旅行の随行・通訳
- ・ 庁内職員向けの杭州市の紹介
- ・ 浜松をPRするための商談資料や親書の翻訳
- ・ 商談会における旅行会社やメディアとの商談

3 研修実施にあたって工夫、苦労したこと

＜工夫したこと＞

平成 30 年 6 月 25 日から 7 月 1 日までの二週間、中国浙江省杭州市から音楽教師研修団が来浜し、市役所での市政講義の受講や市内の小・中・高等学校や大学での音楽授業、民間の音楽教室、環境施設、市制 107 周年ピアノコンサートに加え、浜松城、浜松市楽器博物館など市内観光施設の視察を実施した。その際に、一般的なガイドではなく、杭州市からの研修生が随行することにより、各分野において杭州市との違いなどを明確にしながら、より深い本市の紹介をすることができた。



(音楽教師研修団の随行の様子)

また、市役所内での研修に留まらず、研修員が市内で中国人を多く受け入れている観光施設などを訪問し、中国人旅行者の受入面でのアドバイスやパンフレットの翻訳をすることにより、市内観光施設にも有益となる機会を設けた。

加えて、研修員の本市での研修の成果を活かすため、平成 31 年 1 月新潟で実施された日本政府観光局（JNTO）主催の商談会である VISIT Japan Travel Mart2018-EAST ASIA-において、中国などの旅行会社に直接浜松市の観光の魅力を伝える機会も創出した。

＜苦労したこと＞

台風 24 号の影響により、本市で大規模な停電が発生し、研修員の住居も 2 日以上停電した。そのことによる不安やストレスを与えないため、研修員本人と細やかに連絡をとるなどの対応が求められた。

4 成果・課題

平成 29 年度に杭州市との協定締結 5 周年を迎えたことから、浜松市市長が杭州市を訪問しトップレベル会談を行い、更なる人的、文化的交流を進めることを確認し、その内容を具現化していくための事業として、今年度に初めて杭州市から職員を受け入れた。

その成果として、本研修を通じて、相互理解を深め杭州市との人的ネットワークを構築することや中国など中国語圏をターゲットとした情報発信や受入環境の整備に繋げ、更なる外国人観光客の増加を図ることができた。

今後は、このたび構築できた関係を維持させてい
とが重要であると考えている。



(鈴木浜松市長への成果報告の様子)

「成果の多い研修でした」

氏 名	李 雲昭
出 身 国	中国
受入自治体	滋賀県東近江市
研 修 先	東近江市企画部企画課



1 本事業に応募した動機

近年、中国は経済の高度成長を達成し、国民生活は著しい改善を実現できました。しかし、それに伴う環境汚染や少子高齢化などの問題も顕在化し、国民の関心を寄せる大きな課題となっています。したがって、これらの問題をうまく対応している先進国日本でその手法と経験を学び、将来、中国で活用していきたいと思って本事業に応募しました。

また、私が住んでいる常德市は東近江市と友好都市であり、両市は使節団や研修生の相互派遣などにより友好な関係を築いてきました。私は一人の友好の使者として東近江市の歴史と文化を感じ、常德市の最新の姿を伝え、両市の友好関係をさらに深めたいと思ったのも応募した動機の一つです。

2 研修の概要

2-1 全体研修

5月20日から5月22日までの東京研修では江戸東京博物館と浅草寺を見学したほか、電車の乗り方や仕事のマナーなどを勉強し、半年間の日本生活に向けて非常に役立つ内容でした。また、5月23日から6月20日までのJIAMでの日本語研修は、自分の日本語能力を高めただけでなく、JIAMの和室での茶道体験や日野町でのホームステイや京都市市民防災センターでの防災知識の勉強など、いずれも私の大切な思い出になり、また、ほかの研修生たちと友達になり一緒にバレーボールをしたりすることを通して、日本での生活への不安と緊張を和らげることができました。

2-2 自治体研修

6月21日から東近江市での行政研修が始まり、多くの分野で施設を見学しながら勉強しました。

2-2-1 環境保護研修

水道部で日本の下水処理の全体状況や東近江市の下水システムの建設・維持管理・処理プロセスなどを、市民環境部でゴミの分別・リサイクル・処理と野良犬や野良猫等の管理などを、滋賀県と東近江市の複数の施設（滋賀県湖南中部浄化センター、東



<農村下水処理施設見学>

近江市栗見浄化センター、滋賀県動物保護管理センターなど）を見学しながら勉強することができました。また、村田製作所八日市事業所を見学し、日本の企業の環境への取り組みについても勉強しました。

環境保護について、法律・法規の整備と環境関連施設の建設と環境教育の徹底と市民の協力、いずれも非常に重要であることを感じました。

2-2-2 農業・畜産業研修

水土里ネット日野川流域農業灌漑施設やグリーン近江農業協同組合や滋賀県茶業指導所や滋賀県畜産技術振興センターなどの施設を見学しながら、J Aの仕組みやお茶の栽培や近江牛の飼育などについて勉強しました。また、東近江市愛東町のイチゴ農家でビニールハウスの建設やイチゴの育苗・苗切り・栽培などについて勉強しました。常德市には多くの農村人口があり、農業が常德市の主要産業の一つであるので、これらの農業・畜産業研修は常德市の農家の収入向上につながると信じています。

2-2-3 社会・福祉研修

子育て支援研修について、市内の公私立の保育園・幼稚園・認定こども園を六ヶ所見学しました。病児保育室や遊戯室や火災時に使う避難用具などを設置する建設時の考え方、保育料や保育士の人員配置、園児の授業の様子などを見学し勉強しました。また、湖東学校給食センターを見学しました。市がどういう方針で学校給食を推進しているのか、安全・安心な学校給食がどうやって作られているのか、食育というのは何なのか、これらについて勉強して感心感服するものが多くありました。

健康推進について、健康推進課で講座を受講し、母子健康手帳や各種補助金の交付、健康ガイドブックの作成と配布、各種健康相談、検診・健診や予防接種の推進などの業務を勉強しました。また、東近江市保健・子育て支援センターを見学しました。検診室、診察室、保健・健康・栄養指導室、子育てルーム、防災器具備蓄倉庫などを見て、中国にも同じような施設が必要だと思いました。

高齢者介護について、NPO法人・しみんふくしの家八日市で高齢者介護の現場を見ることができました。実際にリハビリ用具を体験することもできました。また、滋賀県福祉用具センターを見学し、今まで見たことのない福祉用具を多く見ました。高齢社会に突入する中国にとって超高齢社会の日本がこれからいい先生になると思いました。

2-2-4 国際交流

東近江市の姉妹都市であるカナダのテーパー町の使節団が来市し、その対応を通して東近江市の国際交流の進め方がわかりました。また、使節団の視察に随行し、日本文化を体験できただけでなく、使節団のみなさんとも友達になり、中国とカナダの国際交流にもなりました。

また、東近江市御園コミュニティセンターで「中国に親しむ会」を4回開き、



<市民交流で常德紹介>

パワーポイントを使って多くの来場者の前で中国の話しを話して、本当の中国の姿を紹介できました。中国では中日両国は「一衣帯水」の関係であると言います。微力ながら、「中国に親しむ会」でこの関係をさらに深められたと信じます。

2-2-5 文化体験

毎日、おいしい日本料理を食べて、日本の食文化を十分味わいました。寿司、刺身、焼肉、すき焼き、天ぷら、焼きサバ、から揚げ、ラーメン、餃子。あれも食べたい、これも食べたい、どれがいいかなと悩む日々でした。

東近江市の祭り・聖徳祭りに参加し、江州音頭を踊ったりして、日本の祭り文化を初めて体験しました。

琵琶湖花火大会を間近で見られて、日本の夏の風物詩を初めて体験しました。

伝統的な和服に着替えて正式なお茶席に出席しました。

ハロウィンパーティーで忍者になりました。

地域活性化のために行われた各種イベントにも参加し活躍しました。本町商店街で行われたマルシェでチラシを配ったり地サイダー「鈴鹿の雫」を売ったりしました。国指定の五個荘金堂重要伝統的建造物群保存地区で行われた「ぶらっと五個荘・時代絵巻行列」に参加し、人力車夫に変身し歴史悠久な町を歩きました。

東京研修で国会議事堂、東京国立博物館、豊洲市場、東京大学、明治神宮を見学し、日本の政治、美術、魚の文化、教育、宗教などへの理解を深めることができました。

ほかにも、ガリ版体験や抹茶作り体験や書道教室体験など、多くの文化体験に参加しました。

3 帰国後の展望

研修の成果を広めるために、まず自分の見聞と感想などの研修成果をもう一度詳しく整理し、中国で活用できる部分を細かく報告書や提案書などにまとめて関連部署に提出したいと思います。

また、SNSなどを利用して常德市の市民へ向けて日本の良さ、東近江市の良さを積極的に発信し、もっと多くの中国人が日本を訪問し日本の文化等を体験するようにアピールします。

日本に滞在する半年間、クレアのみなさんやJ I A Mのみなさん、そして東近江市のみなさんに大変お世話になりました。どうも、ありがとうございました。



＜東近江市聖徳まつり＞

「平成30年度自治体職員協力交流事業の報告について」

自治体名	滋賀県東近江市
研修員名	李 雲昭
出身国	中華人民共和国
研修分野	一般行政
研修期間	6箇月
主な研修先	環境部

（１）背景・目的

本市は、中国湖南省常德市と平成6年（旧八日市市と締結）に友好都市として提携締結して以来、友好親善使節団を相互に派遣するなどの交流を行っています。

締結の翌年から両市の相互理解と友好関係の増進に貢献する人材を育成することを目的として、職員の研修交流を開始しました。今年で21人目の研修生を迎えました。本制度の活用では5人目となります。

（２）研修の概要

環境対策や上下水道をはじめ様々な施設の見学、観光や農業振興に関する産業、経済政策、議会制度などを含めた行政システムなど、多岐に渡って研修に取り組みました。

東近江市の国際交流団体における研修では、本市の行事や日本の文化に触れる体験に取り組みました。

研修期間中は行政研修だけでなく、市民との交流を深めるために諸行事や各種イベントにも積極的に参加しました。

また、様々な機会を得て中国及び常德市の紹介を発表するなど、両市の懸け橋としての役割を積極的に果たしました。

（３）研修実施に当たって工夫、苦労したこと

李研修生は、日本語能力が非常に高いうえ、真面目でひたむきな研修姿勢が見られたため、随時研修内容についてヒアリングを実施し、専門分野とする環境分野研修だけでなく、日々の中で関心を持った分野の研修も受けられるよう調整を図りました。

市民や市職員との交流を深めるために、地域で行われる行事や祭事、市職員の福利厚生事業や文化、スポーツにわたるサークル活動にも参加してもらいました。

こうしたことを通じて、研修では体験できない日本人の生活や習慣、考え方などについて知ることができたと思います。

(4) 成果・課題

全ての研修において、常德市（及び中国）と比較をしながら研修を進められたことで、東近江市（及び日本）との違いを認識し、学ぶことができたことは、李研修生にとって成果を得られたことと思います。

また、本市の職員に取っても常德市（及び中国）との違いを知る機会となり、意識の向上にも繋がったと感じます。

各種の研修や交流を通じて、最大の成果は両市の友好親善に努められたことです。

研修を通じて多くの職員・市民と交流し、友好を深めました。このことは、李研修生の高い日本語能力と持ち前の明るい人柄、そして東近江市（及び日本）への愛着が生んだものであると感じます。様々な機会を通じて、多くの市民が東近江市の友好都市中国・常德市を認知し、身近に感じることができました。友好親善の役割を大いに果たされたと確信しています。

研修期間中、常德市から使節団が来市され、また本市から使節団が常德市を訪問する機会があり、李研修生は通訳者として両市友好関係の促進に大いに活躍されました。

来年は、友好都市提携締結25周年を迎えます。

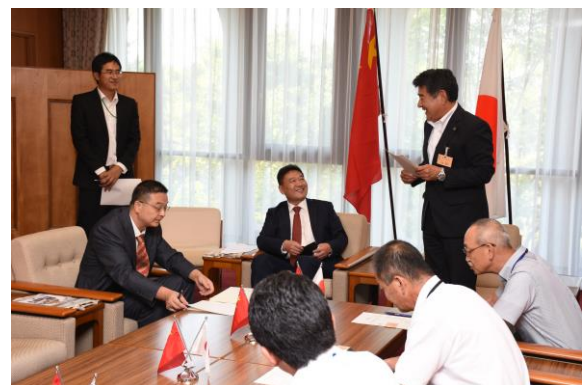
李研修生が今後、両市友好の架け橋となることを期待しております。



環境保護施設見学の様子



地域イベント参加の様子



通訳者として活躍する様子

日本の環境保護を学んで
(Studying Japanese Environmental Protection)

受入自治体
(Host Institution) PREFECTURAL GOVERNMENT OF
 KOCHI
 (Prefectural/Municipal Name)

氏 名
(Name) LANELYN GOLINGAB ATIMPAO

出 身 国
(Country) REPUBLIC OF THE PHILIPPINES
 (Write the official name of your country)

研 修 先
(Training Institution) Kochi Agricultural Center
 Hayama Tien

研修員の顔写真

Port



1 本事業に応募した動機
(Reasons for applying)

In my country I am working as an Agricultural Technologist and I am tasked to produce quality planting materials of potato. Soil fertility is an important factor to attain good yield. Relatively, I want to learn about the soil management Technologies in Japan. In addition, pruning techniques is one of my interest to because it is important in maintaining the vigor the plants.

2 研修の概要
(Summary of Training)
(何を学び何を身に付けたかを含む。)
(What did you learn?)

I had two trainings. First was about the Soil Management at the Kochi Agricultural Center. We conducted different experiments and from there I learned many things. I learned about the importance of knowing the soil condition first before applying any farm inputs. I also learned about the effects of the different compost and fertilizer rates to the growth and yield of Kumatsuna, Japanese way of planting potatoes, how to compute and make stock solutions, effects of the different mulching materials to the growth and yield of the lettuce. In addition to that, I did soil laboratory works including soil analysis, and other agricultural activities like bed preparation, sterilization, planting eggplant trellising and pruning, farm machineries operation, harvesting of ginger, oba and myoga and



Harvesting of lettuce.

many more activities. Secondly, Landscaping at the Hyama Tien. They taught me the pruning techniques and other activities to maintain the beauty of a park and landscapes. I've also seen how they make a Japanese style bamboo fence. The output was very beautiful and attractive.

3 帰国後の展望

(Plans upon returning home)

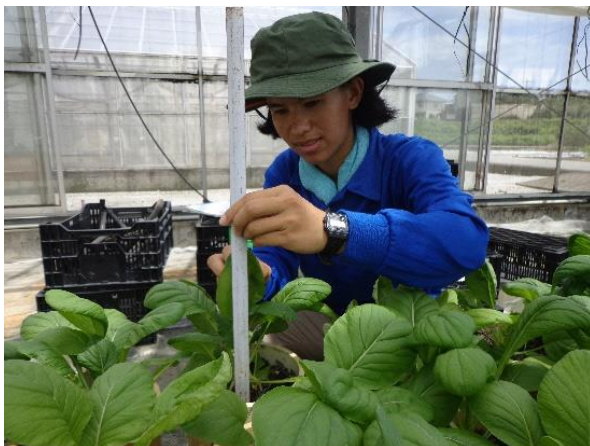
(本事業で得た成果を帰国後どのように活かしたいか)

(How will you apply what you learnt?)

When I will go back to my province, I will apply the things I' ve learned from my trainings in my own workplace to improve my production of potato seeds for the benefits of our farmers. I will also share and present the results of our experiments here to the farmers and other interested individuals during seminars and trainings. I want them to know the importance of knowing the soil condition first before applying any outputs to avoid the destruction of the soil. This would help them to improve the soil fertility that would lead to the increase in their yield.

My training on landscaping particularly the pruning techniques will be helpful for me to help in the maintenance of the Kochi-Benguet Sakura park and also to the beautification of our surroundings. We can appreciate more the beauty of the trees when it is properly pruned.

Below are some of the photos showing the activities I' ve done.



Weekly plant survey was done to the kumatsuna plants.



Pruning of the plant in the backyard of a Japanese house

「 土壌管理技術および施肥管理技術の習得 」

自治体名 高知県
研修員名 アティンパオ レーンリン
ゴリンギャブ
出身国 フィリピン共和国
研修分野 農業（土壌管理）
研修期間 7月9日～10月19日
主な研修先 高知県農業技術センター

1 背景・目的

高知県では、昭和50年にフィリピン・ベンケット州と姉妹県州提携し、以降ほぼ毎年研修員を受け入れてきた。平成17年度からは自治体職員協力交流事業により、本県のノウハウや技術の習得を目的として研修員を受け入れている。

2 研修の概要

- ・高知県農業技術センターにおける土壌肥料関係の研究内容についての講義
- ・肥培管理法の違いが作物（ジャガイモ、コマツナ、レタス等）の生育、収量にどのような影響を与えるのかについて栽培試験を実施
- ・ジャガイモの養液栽培の実習
- ・土壌断面調査および土壌分析の実習

3 研修実施にあたって工夫、苦労したこと

- ・技術の習得には可能な限り栽培試験を取り入れた。
- ・研修時期が栽培試験に不適な夏場を含んでいたため、品目選定や栽培期間の確保など試験計画の立案に苦労した。



コマツナの生育調査

4 成果・課題

成果：堆肥や肥料の過剰投入による弊害を学んだことで、ジャガイモの種苗生産の安定につながることを期待する。また、ジャガイモ種苗生産で導入を検討している養液栽培の実習をしたことで、栽培の参考になると思われる。

課題：言葉の壁があり、こちらの意図や技術を十分に伝えられないことがあった。

「 公園の管理・美しい景観を造る造園技術研修 」

自治体名 高知県
研修員名 アティンパオ レーンリン ゴリンギャブ
出身国 フィリピン共和国
研修分野 造園技術
研修期間 18日間(10月22日～11月13日)
主な研修先 有限会社 葉山庭園

1 背景・目的

高知県では、昭和50年にフィリピン・ベンケット州と姉妹県州提携し、以降ほぼ毎年研修員を受け入れてきた。平成17年度からは自治体職員協力交流事業により、本県のノウハウや技術の習得を目的として研修員を受け入れている。

2 研修の概要

- 樹木の管理について、剪定や伐採、殺菌剤塗布の実習
- 樹木育成・景観づくりのための、土壌改良・除草実習
- 庭園・花壇などを美しく魅せる花苗植栽・竹垣植栽実習
- 道具の使い方と手入れ実習 ・美しい公園・庭園の視察

3 研修実施にあたって工夫、苦労したこと

- 短い期間で、可能な限り多くの実習や経験が出来るように努力した。公園・国道・学校・一般住宅など多くの場所で、それぞれの場所に合った様々な実習ができた。
- 言語の問題で、意思疎通が完全には出来なかったが、とても意欲的に研修を受けていた。日本語・英語・身振り手振りや翻訳アプリ等使いながら積極的に職人と会話し実践を研修できた。



樹木剪定作業をしているところ

4 成果・課題

成果：樹木の管理方法を学んだことで、フィリピンで造成が計画されている姉妹交流公園の設計・管理に活用できることを期待する。研修では造園技術と共に、安全に作業を行う事の大切さや、道具の使い方・手入れ方法、また枝葉の処理やリサイクルについても積極的に学んでいました。高知の美しい庭や公園・植物園を視察し、今後の公園造りの参考になると思います。



花壇の地ごしらえをしているところ

課題：具体的に必要な技術が分かれば、その事について研修を行えます。

「 WATER SUPPLY MANAGEMENT 」

Name MON TITO
Country KINGDOM OF CAMBODIA
Host Institution Kitakyushu City, Fukuoka Pref.
Training Institution Water and Sewer Bureau,
City of Kitakyushu



1 Reasons for applying

The huge demand of drinking water supply in Phnom Penh City is increasing fast, Phnom Penh Water Supply Authority try to expand and upgrade the technology and water quality step by step. The problem we facing is that the human resource is still limited and some systems are not working well. So how to keep the system work stable, sustainable and satisfaction? Japan is one of leading country in the world. All people around the world recognize the technology, knowledge, all goods and services from Japan is best. I hope that I can learn the key tools, technique, knowledge and experience in the field of water supply management such as Operation and Maintenance of water supply system, water quality management, human resource management and Japanese culture as well.

2 Summary of training

(What did you learn?)

Through this 6 months training in Japan, I got a lot of knowledge and experience. My starting life in Japan in Tokyo I learnt about some regulations, law, Japanese culture, good habit for the daily life. And then, the Japanese class was started in JIAM, Shiga prefecture. I never knew Japanese alphabet, it was a little bit difficult for my 1st, 2nd, 3rd week, but from the 4th, 5th and 6th I feel comfortable and interesting. It's amazing for me, I didn't believe I can speak Japanese.



(Country Presentation in Japanese)

After finished 6 weeks learning Japanese I had to move to my host institution Kitakyushu City Water and Sewer Bureau to continue my specialized training. In the field of Water Supply Management I have many training subjects and they were very interesting. The main idea of Kitakyushu City water supply is to produce clean tasty water, low cost, and plenty. Stable process system, so all facilities is under good controlling system, easy

operation and maintenance by following the standard operation manual.

About water purification plant operation and maintenance, I attended many courses such as to operate and monitor water quantity, water level, and water quality. Preventive maintenance is very important to avoid all facilities' accident, so the maintenance team need to follow the annual maintenance schedule for all facilities. I have attended some patrol and maintenance such as motor valve maintenance, motor pump inspection, distribution reservoir inspection, electrical panel maintenance and test, water quality instrument maintenance, etc.



(Distribution reservoir inspection)

Water quality research laboratory training, I learn about water quality test management system between inspection team and quality assurance team to ensure the quality of the result. And also some subjects such as chemical management, chemical waste management, sampling (raw water source, purification plant process, and tap water) management, and testing.



(Water sampling)

Other interesting subjects for me were about human resource management and capacity building. Within 3 to 5 years work rotation, systematic staff assignment (experienced and young staff in pairs) are good system to improve staff knowledge and experience. By teaching, and sharing experience and knowledge, so they also can improve each other skills.

I also attended some other trainings such as:

- Pressure Reducing Valve about operation and maintenance,
- Water distribution management system and pipe maintenance: monitor water flow, pressure, and water quality, when abnormal pressure or flow rate appears, it will get an alarm at the center and by e-mail.
- Water Leakage Training what cause to pipe leakage and there are some various tools to find the leakage point,
- Valve operation training to avoid system or pipe stress (water hummer),
- Customer information management and billing system: Which information is important, secret and not secret. Water meter reading



(Pipe leakage training)

staff go to read the current number then input into the smartphone then print by the portable printer and give the bill to the customer at the same time.

- Oxygen deficiency and poison of hydrogen sulfide training, it is important to pay attention for the staff who working in a confined space to avoid life accident.
- Design training: I learn some calculations about Pipe Loss (Hazen Williams Formula) and water treatment plant method design and consideration.
- GIS system construction: The advantage of GIS system, step by step to create GIS system for water distribution network and update.

During my time here I also have a chance to visit some factories such as: EIM Electric Company about submersible pump, Yaskawa Electric Corporation, TOTO factory very good 5S&KAIZEN, Furue Water Treatment Plant, Torishima Pump Company training about pump O&M, and also Kubota Pump Company training about pump O&M.



(Dismantle Kubota Pump)

3 Plans upon returning to your home country)

(How would you apply what you have learnt on the program?)

After I go back to my home country, I will present what I have learnt from Japan to the top management of my organization in order to carry out some action plan as below:

- Update and make more specific Standard Operation Procedures, work instructions
- Establish more materials for reading (relating to water treatment technology)
- Improve water treatment plant operation and maintenance system more stable
- Daily treated water sampling reserve for verify
- Improve water quality monitoring
- Improve staff skills, knowledge, and experience by job rotation
- Systematic staff assignment (experienced and young staff in pairs)
- Sharing my experience and knowledge with my colleague
- Raise staff awareness about safety such as water treatment plant safety (electrical, mechanical, oxygen deficiency, etc.)

「カンボジア モン・ティトさんの受入研修」

自治体名	福岡県 北九州市
研修員名	MON T I T O (モン・ティト)
出身国	カンボジア国
研修分野	上水道
研修期間	6 か月
主な研修先	上下水道局海外事業課

1 背景・目的

北九州市では1996年から自治体職員協力交流事業を活用して、アジアを中心とした海外の自治体等の職員を研修員として受け入れ、研修を通じた海外とのネットワーク構築や市職員の国際感覚の向上などにより、本市の国際化推進に大いに役立っている。

受け入れる研修分野は、一般行政、環境、上下水道、経済など幅広い分野にわたっており、派遣国・自治体からも地方行政に携わる職員の育成に貢献するプログラムとして高く評価されている。

本市の水道分野の技術協力は、1999年カンボジア国にはじめての「個別専門家」を派遣し、今年で20年目を迎える節目の年となる。カンボジア国が掲げる『2025年までに都市部のすべての住民に安全な水を普及させる』という国家目標達成に向けて、本市との協力関係はますます加速していく状況にある。

研修員には、次の20年、本市とカンボジア国との重要な橋渡しの存在として活躍してくれるものと期待している。

2 研修の概要

5月20日に来日。2日間の東京研修では、日本で過ごすために必要な日本の文化や法律について学び、その後、滋賀での6週間の日本語研修では、研修期間中、日本で日常生活を行なうのに支障のない程度の日本語能力を身に付けていただいた。

7月5日に北九州市に来られ11月23日の帰国の日まで、4ヶ月半にわたり「水道事業管理(Water Supply Management)」に関する研修を行なった。



配水池の点検

前半の3ヶ月では、上下水道局内の水道部門各課の協力を得て、受入れ研修を実施した。経営企画課、総務人事係などでは、経営計画の考え方や人材育成についての研修を、工事事務所では管路維持管理、バルブ操作や管布設替工事の研修などを行なった。研修員が浄水場長であることから、浄水場や水質試験所での研修は少し長めの期間をとり、浄水場では、電気設備・機械設備の維持管理・点検・更新などについて学び、水質試験所では、日本の水質基準の変遷・歴史や採水方法、水質分析手順などについて研修

(座学+OJT)を行なった。

後半の1ヵ月半では、主に研修員のリクエストに応える形で、研修内容を臨機応変に組立て直しながら研修を実施した。浄水場を再度訪問し運転維持管理や薬品注入や薬品管理に関する詳細ヒアリングを行ない、水質試験所でも再度1回目の研修で学び切れなかった内容について確認を行なった。

研修の効果を高めるために、研修期間中、月に1～2回程度、地元企業の工場見学や企業での研修を盛り込んだ。10月下旬には、福岡市で開催された水道展2018へ赴き、最新の水道技術・製品に関する知識を深めた。

また、研修員が勤務するニロート浄水場では(株)クボタ製の配水ポンプを採用していることから、(株)クボタ様のご協力で、枚方市の工場内においてポンプのメンテナンス研修を実施していただいた。ニロート浄水場で採用しているものと同型ポンプ(DV-LJ)を実際に分解しながら、組立ての手順、管理寸法の



ポンプシャフトの測定



アクションプラン発表会

確認方法、消耗部品の種類や扱いの注意点、交換頻度などを学んだ。

なお、北九州市研修の初めと終わりには、ジョブレポート発表会、及び、アクションプラン発表会を開催し、本研修に期待することと、本研修で学んだことを帰国後どのように生かしたいかについて、発表して頂いた。

3 研修実施にあたって工夫、苦労したこと

研修員はプノンペン水道公社(PPWSA: Phnom Penh Water Supply Association)が保有する4つの浄水場の1つであるニロート浄水場(処理能力26万トン/日)の責任者である。水処理プロセスに関わる技術や維持管理に関する知識だけでなく、経営や組織・人事に関する内容まで幅広い研修メニューとした。浄水場における研修では、整備業務だけでなく運転業務についても研修に含めた。10月以降は、本人の意向を踏まえながら、北九州市で実際に行なっている運転職員の勤務パターンや整備業務のマニュアル化など細かく具体的な内容について浄水場職員に直接ヒアリングを行なうなど、帰国後の実務に生かせる内容となるよう工夫した。

4 成果・課題

本市職員と研修員とが良好な人間関係を構築することができ、今後、北九州市としてカンボジア水道への働きかけや支援を継続する上で、カウンターパートの重要なひとりとして、人脈を醸成できた。今後ますます親密な都市間交流がなされ、さらなる友好関係が深まるように努めてまいりたい。

日本でのユニークな経験

氏 名	ロドリゴ・リマ・マシャド
出身国	ブラジル連邦共和国
受入自治体	長崎県長崎市
研修先	長崎市文化観光部、教育委員会ほか



1 本事業に応募した動機

日本とその文化は様々な点で他とは異なっている。特に教育、技術、組織運営の分野ではそういえる。この特別なプログラムに参加することによって、日本の組織の中で日常業務を経験し、日本の生活を体験するというユニークな機会をつかむことになると考えた。また、多様な環境の中で働いて自分を試してみたかったし、自分自身新しいことを学ぶのが大好きなので本事業に応募した。

2 研修の概要

専門研修の間、長崎市でどのように公共サービスが提供されているかを見たり、実際に施設を訪問する機会があったので、その内容についてまとめる。

平和の促進：

1945年に原爆が投下され、それにより苦しんだ経験を持つ長崎市では、平和推進課が世界平和を促進し、世界から核兵器を廃絶する様々な活動を行っている。また同課は、平和を促進する人材育成に取り組むとともに、平和に関する意識を高めるために市民向けの講座を行っている。

原爆資料館は、この惨事に関する事実について伝えるとともに、多くの被災資料を展示している。

また長崎市では毎年、原爆死没者慰霊のため平和式典が開催されており、そこで市長が平和宣言文を読み上げている。

観光：

長崎市には世界中から大勢の観光客が訪れている。市には観光客用の素晴らしいインフラがあり、市は、毎年 600 万人以上の観光客を受け入れるために懸命に働いている。

ほとんど全ての市内の観光地を訪れたが、よく保全されており、案内のためのスタッフが配置されていたり、英語・中国語・韓国語などの外国語で情報発信がなされていた。特に模範となるところは、軍艦島、グラバー園、大浦天主堂などであり、これらすべてはユネスコの世界遺産に登録されている。

文化：

文化財課や関係課は、有形及び無形文化財、民間伝承、文化的景観を保全し、保護することにより長崎の歴史、伝統、風習を現在に伝える努力を払っている。

本件に関し、史跡出島（かつての長崎の港）や長崎歴史文化博物館などの重要な施設を訪問した。また、長崎最大のまつり、長崎くんちも観覧した。長崎くんちは、市内全域でたくさんのパフォーマンスが繰り広げられる 3 日間のイベントである。



長崎くんちの様子

国際：

国際課は海外の政府や機関との連携を担うとともに長崎市の国際化の促進を行っている。同課では多くの事業が行われているが、中国、韓国、アメリカ出身の 3 人の国際交流員が学生や市民に異文化を紹介する国際理解講座や庁内向けの語学講座などを開催している。私も文化や多様性を語ることでできる母国ブラジルに関する講義を中学生に対して、また市民向けにそれぞれ 1 回行った。また国際課は長崎に住む外国人住民向けに日本語講座を開講しており、ボランティアがその先生を行っている。



市民向け国際理解講座

水産農林：

長崎は全国 2 位の漁獲量を誇る都市で、水産センターが魚介類の種と数の保全とバランスを保つために設置されている。

水産センターでは数種の魚を養殖し、海に放流している。また海の状態を監視したり、海の生き物の病気について研究し、地元の漁師を助けている。

教育委員会：

教育は日本全国で非常に真剣に考えられている分野である。日本のいくつかの学校を訪問し、学生が行う活動や学校施設の違いに気がついた。例えば、日本人は私達よりも長い時間学校にいて、体育、美術、音楽の授業を受けるし、規則が非常に厳しい。教育委員会での研修で、市立図書館を訪問したり、公民館といった興味深い施設の見学を行った。

環境：

日本でのごみ処理方法は、ブラジルのそれとは異なるので、とても興味深かった。リサイクルの分別過程は似ていたが、一般ごみは焼却処分されていた。ブラジルでは全く焼却処分は行わない。私は焼却施設を訪問し、その過程と利点について学んだ。その施設では大量のごみを処理しており、環境に非常に配慮していた。



長崎市西工場（一般廃棄物処理施設）

3 帰国後の展望

日本は、良い組織運営がされており、サービスの質も良い。ブラジルの組織もそのような資質を持ち、サービスを向上させることが出来れば素晴らしいと思う。

本事業を通してこれまで接したことのなかった分野についても知ることができたので、帰国したら自分の自治体でより良いサービスを提供する手助けができればと思う。問題解決のため自分の新しいアイデアを実行してみたり、公共サービスを改善するため様々なことをしてみたいと考えている。

私は現在日本で経験したことや長崎での研修を通して学んだことについて報告書を書いており、上司に提出する予定である。可能であれば、自分の経験を同僚に共有するため講座を開催したり、日本についての知識を分かち、たくさんの訪れる場所がある日本についての関心を高めるため、学校で講義をすることもできるかもしれない。

加えて、サントス市に対して、国際協力を促進する活動を増やすことやサントス市と長崎市の絆を強める活動に参加するよう働きかけを行いたい。

このような素晴らしい機会をくださったことに感謝している。日本の文化や素晴らしい協調の精神についてたくさん学ぶことができた。

「長崎市とサントス市の交流促進」

自治体名	長崎県長崎市
研修員名	ロドリゴ・リマ・マシャド
出身国	ブラジル連邦共和国
研修分野	教育人事・平和・国際・観光・環境・水産農林
研修期間	6ヶ月
主な研修先	文化観光部、教育委員会ほか

1 背景・目的

長崎市は市の最上位計画である第四次総合計画において「個性輝く世界都市」を将来の都市像として掲げ、「世界とつながるまち」となるような施策展開を行っている。長崎市は世界の6都市と姉妹（友好）都市提携を結んでいるほか、近年では姉妹都市提携等の形式にとらわれず、市民や民間交流団体が主体となって自由、気軽な交流を行う「市民友好都市」の提携を推進しており、現在3都市と提携している。

姉妹都市等から研修員を招聘し、研修員が今後の長崎市との関係において「交流のキーパーソン」となってもらうことを目的として、平成25年度からこの事業を活用しており、平成30年度はブラジル・サントス市から4年ぶりに研修員を招聘した。

2 研修の概要

研修員は、ブラジル・サントス市の教育人事部門で勤務し、主に人事業務や教育施設管理などを担当しているため、関連分野の研修を座学と現場の視察を交えながら行った。加えて、長崎市は広島市と共に核兵器のない平和な世界の実現に向け、平和首長会議というイニシアティブを行っており、サントス市もそのリーダー都市を務め、平和活動に熱心であることから長崎市の平和行政の研修を行うと同時に平和祈念式典の一連の行事の補助も研修に含めた。

また、当課での研修として、ブラジルの衣食住や遊びなどについて中学校で講座をしたり、市民向けの講座で「ブラジルの多様性と美しさ」について紹介した。その他、本人の関心の高かった上下水道やごみ処理を含めた環境分野での研修などを行った。

3 事業実施にあたって工夫、苦勞したこと

研修員は本市に着任した時点で日本語をほとんど話すことができなかったため、課内の職員とコミュニケーションが取れること、および、一人暮らしをするうえで困らない程度の日本語力をつけることを目標にして週に1回日本語講座に参加してもらった。加えて、講座で学んだ日本語を使う機会ができるように日本語おしゃべり会にも定期的に参加してもらい、日本語のコミュニケーションスキルを高めてもらうこととした。こうした講座に参加することにより、市内の外国人住民と知り合うとともに、市民との交流が生まれた。

4 成果・課題

派遣元の組織・人員体制や社会の仕組みは本市と異なる点が多くあった。しかし本プログラムを通して、研修員が日本社会に実際に生活しながら現場視察をすることで、共通理解を醸成することができた。例えば、研修員が公民館で行っているような生涯学習について学んだ時、公民館の概念が研修員の考えにあるものとは異なっていたようだった。しかし、実際に公民館で行われている生涯学習講座を見学したり、参加者と意見交換をすることにより、公民館の持つ様々な役割や本市で行っている生涯学習について共通理解をもつことができた。同じようなことがその他の研修でも見られ、テキストや講義を通して学ぶだけでなく、現場を実際に見ることで共通理解を築き、それを基にして、双方が新しい発想を得ることができたのではないかと考えている。

加えて、姉妹都市交流は通常 10 年ごとの訪問・受入れなどの周年事業などにとどまることが多いが、研修員として長崎市に来ていただくことで、本市の国際化を促進することはもちろん、サントス市が現在取り組んでいるプロジェクトや周年事業の時に始まった交流プロジェクトの進捗状況などを確認することが出来ている。例えば、平成 24 年に長崎市とサントス市は提携 40 周年を迎え様々な周年事業を行い、その 2 年後には当時寄贈を約束した路面電車の寄贈を行った。この時もサントス市の職員に研修員として来てもらっていたので、派遣元の担当者から今年度の研修員の派遣の前に本件の進捗状況が報告され、今回の研修員を通して寄贈したものがどのような状況にあるか今後の展望などを知ることができている。今後も研修員の受入れを通して、4 年後の提携 50 周年の節目まで切れ目のない交流が続くことを期待している。

文化や組織体制等の違いから物事の進む速度に違いがあるが、その違いも数か月以内に同じ職場で時間を過ごすうちに、そういったものなのだと互いに受け入れることができるようになることもこの研修の成果だと思う。今後、研修員には交流のキーパーソンとしての活動を期待したい。



学校での講座



田上市長にサントス市の近況について
報告する研修員